

教員向け情報提供

～新たな大学受験の常識（「センター試験」と「共通テスト」との違い）～

今年度で「共通テスト」が実施されて 4 年目を迎えました。「センター試験」から「共通テスト」へ移行され、大学受験の常識にも大きな変化が生じています。私が共通テストを解いた感触と各種統計から、変化のあった常識をまとめました。本稿は主として国公立大学志望者をイメージしながら読み進めてください。なお、私大専願者は「共通テスト」を受験せず、それぞれの大学の個別試験対策を行うことが無難と思われます。

1 共通テストは基本事項の確認ではない。

- ① 難しすぎて基本の確認になっていない。
- ② 共通テストは点が取れて当たり前ではない。
- ③ 2 次試験と同列の試験と考えること。

2 共通テスト対策は高 3 夏からでも OK ではない。

- ① センター試験は夏からの対策でも間に合った。
- ② 共通テストは 1 年前から対策しても厳しい場合がある。

3 共通テスト対策よりも 2 次勝負ではない。

- ① センター試験は「点数が取れて当たり前」＋「点差が付かない」から 2 次勝負といわれていたが、共通テストは差がつく試験である。2 次逆転は極めて困難。

4 「併願校は共通テスト利用」という以前の常識は通用しない。

- ① 共通テストが「差がつく試験」になったことで、以前より得点しにくくなった。
- ② 私大が共通テスト利用型入試枠を増やして、国立志望者の囲い込みを積極的に行っている。

5 「高校 3 年生で逆転合格できる」は神話化したか？

- ① 昔あった「驚くような逆転合格」は、ほぼ発生しない。
- ② 「問題の相性が良くて、数学 9 割取れた」はあり得ない。

近年の大学入試に係る統計として、①大学受験者数→増加、②共通テスト受験者数→減少、③センター試験/共通テスト平均点→ほぼ変化なし となっている。このことから、「共通テストはセンター試験より難化している」、「共通テストを受験する学力下位層は減少している」ことがわかる。